

28 ミナミメダカ

(メダカ科)

兵庫県ランク:要注目

Oryzias latipes

環境省ランク:VU

種の概要

全長4 c m程度。流れの緩い小川や水路などに生息し、動物プランクトンなどを食べる。春から夏にかけて産卵し、早いものはその年の秋に、普通は次の年に産卵する。メダカの産卵時期と水田に水が張られる時期は一致しており、日本の稲作文化と共存してきたことから、「水田の魚」とも称される。日本固有種で、日本海側では京都府以西、太平洋側では岩手県以西の本州、四国、九州、南西諸島に分布する。



写真提供:庄子 恭平

県内における生息状況及びその他特記事項

本種は遺伝学的に9つの型に区分されるが、県内にはこのうち2型が分布する。本州の瀬戸内海側、及び淡路島の水系、また日本海側の由良川上流には、ミナミメダカ東瀬戸内型が、日本海側の岸田川、及び竹野にはミナミメダカ山陰型が分布する。県内での分布は広いが、生息環境は悪化していると考えられる。河川、水路、水田、ため池と続く水域ネットワークの指標種になりうることから要注目種とした。

保護上の留意点

圃場整備に伴う用排水分離や乾田化により、本種が産卵のために水田やため池に遡上する経路を遮断したこと、すなわち河川から横方向に広がる水域ネットワークを崩壊させたことが減少の主な原因と考えられる。オオクチバス等の外来種による捕食の影響も大きい。人為的な移植による遺伝的攪乱も懸念されており、飼育していた産地不明のメダカを放流することは厳に慎みたい。

県内分布

神戸市、尼崎市、西宮市、伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町、明石市、加古川市、西脇市、三木市、高砂市、小野市、加西市、加東市、多可町、稲美町、姫路市、赤穂市、宍粟市、たつの市、市川町、福崎町、太子町、上郡町、佐用町、豊岡市、香美町、篠山市、丹波市、洲本市、南あわじ市、淡路市

【執筆者】田中 哲夫・庄子 恭平・信本 励

主要な選定理由

人為性	激減	
	環境	○
	捕獲	○
	遺伝	△
特殊性	特殊	
	孤立	
学術性	極限	
	限界	
	希少	

